

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 6 月 16 日 (2011.6.16)

【公開番号】特開 2009-292769 (P2009-292769A)

【公開日】平成 21 年 12 月 17 日 (2009.12.17)

【年通号数】公開・登録公報 2009-050

【出願番号】特願 2008-147923 (P2008-147923)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/55 (2006.01)

A 6 1 K 8/893 (2006.01)

A 6 1 K 8/73 (2006.01)

A 6 1 K 8/60 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/55

A 6 1 K 8/893

A 6 1 K 8/73

A 6 1 K 8/60

A 6 1 Q 19/00

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 4 月 26 日 (2011.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支持体に化粧料組成物を含浸してなるシート状バック化粧料であって、前記化粧料組成物は、1) 水酸化レシチンと、2) ポリエーテル変性シリコーンと、3) ショ糖脂肪酸エステルを含有することを特徴とする、シート状バック化粧料。

【請求項 2】

化粧料組成物における、前記ポリエーテル変性シリコーンの H L B (Hydrophile-Lipophile Balance) 値が 10 ~ 20 であることを特徴とする、請求項 1 に記載のシート状バック化粧料。

【請求項 3】

化粧料組成物における、前記ポリエーテル変性シリコーンが PEG-10 メチルエーテルジメチコン、PEG-11 メチルエーテルジメチコン、PEG9-ジメチコン、PEG-10 ジメチコン、PEG-12 ジメチコンの 1 種又は 2 種以上であることを特徴とする、請求項 1 又は請求項 2 に記載のシート状バック化粧料。

【請求項 4】

化粧料組成物における、前記ショ糖脂肪酸エステルにおいて、脂肪酸が C 8 - 22 であり、該脂肪酸の 1 種又は 2 種以上がショ糖とエステル結合したものであることを特徴とする、請求項 1 ~ 3 何れか 1 項に記載のシート状バック化粧料。

【請求項 5】

前記支持体は、レーヨンを含む不織布であることを特徴とする、請求項 1 ~ 4 何れか 1 項に記載のシート状バック化粧料。

【請求項 6】

有効成分として、保湿剤を含有する化粧料組成物を、支持体に担持したものであることを特徴とする、請求項１～５何れか１項に記載のシート状パック化粧料。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

この様な実状に鑑みて、本発明者らは、化粧料組成物の担持特性に優れるシート状パック化粧料を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、支持体に化粧料組成物を含浸してなるシート状パック化粧料であって、前記化粧料組成物は、１）水酸化レシチンと、２）ポリエーテル変性シリコンと、３）ショ糖脂肪酸エステルを含有するシート状パック化粧料に於いて、化粧料組成物又は有効成分が速やかにシートに浸透し、しかる後シートを皮膚に適用した場合、シートから皮膚へ化粧料組成物が容易に移行し、皮膚に浸透することを見だし、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は、以下に示すとおりである。

（１）支持体に化粧料組成物を含浸してなるシート状パック化粧料であって、前記化粧料組成物は、１）水酸化レシチンと、２）ポリエーテル変性シリコンと、３）ショ糖脂肪酸エステルを含有することを特徴とする、シート状パック化粧料。

（２）化粧料組成物における、前記ポリエーテル変性シリコンのHLB（Hydrophile-Lipophile Balance）値が１０～２０であることを特徴とする、（１）に記載のシート状パック化粧料。

（３）化粧料組成物における、前記ポリエーテル変性シリコンがPEG-10メチルエーテルジメチコン、PEG-11メチルエーテルジメチコン、PEG9-ジメチコン、PEG-10ジメチコン、PEG-12ジメチコンの１種又は２種以上であることを特徴とする、（１）又は（２）に記載のシート状パック化粧料。

（４）化粧料組成物における、前記ショ糖脂肪酸エステルにおいて、脂肪酸がC 8 - 22であり、該脂肪酸の１種又は２種以上がショ糖とエステル結合したものであることを特徴とする、（１）～（３）何れか１項に記載のシート状パック化粧料。

（５）前記支持体は、レーヨンを含む不織布であることを特徴とする、（１）～（４）何れか１項に記載のシート状パック化粧料。

（６）有効成分として、保湿剤を含有する化粧料組成物を、支持体に担持したものであることを特徴とする、（１）～（５）何れか１項に記載のシート状パック化粧料。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

< ３ > ショ糖脂肪酸エステル

本発明のショ糖脂肪酸エステルは、ショ糖と脂肪酸がエステル結合したものであり、ショ糖をDMF等の溶媒に溶解せしめ、ピリジンやトリエチルアミンなどのアルカリ存在下脂肪酸クロリドを反応させるなど、常法に従い合成することは可能である。該脂肪酸残基としては、オレイン酸残基、イソステアリン酸残基、ラウリン酸残基、ミリスチン酸残基、パルミチン酸残基、ステアリン酸残基、ベヘン酸残基、ウンデシレン酸残基が使用することが出来、ラウリン酸残基、パルミチン酸残基、ステアリン酸残基が特に好ましく、又、水酸基のアシル化度については、本発明で用いる、ショ糖脂肪酸エステルとしては、ショ糖モノ脂肪酸エステル、ショ糖ジ脂肪酸エステル、ショ糖トリ脂肪酸エステルが好ましく挙げられるが、中でもショ糖モノ脂肪酸エステルがより好ましく例示できる。このような市販品としては、「DKエステルS-L18A」（ショ糖ヤシ油脂肪酸エステル；第一工業製薬製）が例示できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

< 4 > 本発明の化粧料を構成する化粧料組成物

本発明の化粧料組成物は、前記必須成分を含有し、後記支持体に含浸されるべきものであることを特徴とする。本発明の化粧料組成物においては、これら上記の成分以外に通常化粧料で使用される任意成分を含有することができる。任意成分としては、例えば、マカデミアナッツ油、アボカド油、トウモロコシ油、オリーブ油、ナタネ油、ゴマ油、ヒマシ油、サフラワー油、綿実油、ホホバ油、ヤシ油、パーム油、液状ラノリン、硬化ヤシ油、硬化油、モクロウ、硬化ヒマシ油、ミツロウ、キャンデリラロウ、カルナウバロウ、イボタロウ、ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、ホホバロウ等のオイル、ワックス類、流動パラフィン、スクワラン、プリスタン、オゾケライト、パラフィン、セレシン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等の炭化水素類、オレイン酸、イソステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸等の高級脂肪酸類、セチルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、オクチルドデカノール、ミリスチルアルコール、セトステアリルアルコール等の高級アルコール等、イソオクタン酸セチル、ミリスチン酸イソプロピル、イソステアリン酸ヘキシルデシル、アジピン酸ジイソプロピル、セバチン酸ジ - 2 - エチルヘキシル、乳酸セチル、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ - 2 - エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、ジ - 2 - ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリ - 2 - エチルヘキサン酸グリセリン、トリ - 2 - エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ - 2 - エチルヘキサン酸ペンタンエリトリット等の合成エステル油類、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ジフェニルポリシロキサン等の鎖状ポリシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサンシロキサン等の環状ポリシロキサン、アミノ変性ポリシロキサン、アルキル変性ポリシロキサン、フッ素変性ポリシロキサン等の変性ポリシロキサン等のシリコン油等の油剤類、脂肪酸セッケン（ラウリン酸ナトリウム、パルミチン酸ナトリウム等）、ラウリル硫酸カリウム、アルキル硫酸トリエタノールアミンエーテル等のアニオン界面活性剤類、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、ラウリルアミンオキサ이드等のカチオン界面活性剤類、イミダゾリン系両性界面活性剤（2 - ココイル - 2 - イミダゾリニウムヒドロキサイド - 1 - カルボキシエチロキシ 2 ナトリウム塩等）、ベタイン系界面活性剤（アルキルベタイン、アミドベタイン、スルホベタイン等）、アシルメチルタウリン等の両性界面活性剤類、ソルビタン脂肪酸エステル類（ソルビタンモノステアレート、セスキオレイン酸ソルビタン等）、グリセリン脂肪酸類（モノステアリン酸グリセリン等）、プロピレングリコール脂肪酸エステル類（モノステアリン酸プロピレングリコール等）、硬化ヒマシ油誘導体、グリセリンアルキルエーテル、POEソルビタン脂肪酸エステル類（POEソルビタンモノオレート、モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン等）、POEソルビット脂肪酸エステル類（POE - ソルビットモノラウレート等）、POEグリセリン脂肪酸エステル類（POE - グリセリンモノイソステアレート等）、POE脂肪酸エステル類（ポリエチレングリコールモノオレート、POEジステアレート等）、POEアルキルエーテル類（POE 2 - オクチルドデシルエーテル等）、POEアルキルフェニルエーテル類（POEノニルフェニルエーテル等）、プルロニック型類、POE・POPアルキルエーテル類（POE・POP 2 - デシルテトラデシルエーテル等）、テトロニック類、POEヒマシ油・硬化ヒマシ油誘導体（POEヒマシ油、POE硬化ヒマシ油等）、アルキルグルコシド等の非イオン界面活性剤類、ポリエチレングリコール、グリセリン、1, 3 - ブチレングリコール、エリスリトール、ソルビトール

ル、キシリトール、マルチトール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ジグリセリン、イソプレングリコール、1, 2 - ペンタンジオール、2, 4 - ヘキシレングリコール、1, 2 - ヘキサジオール、1, 2 - オクタンジオール等の多価アルコール類、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム等の保湿成分類、グアガム、クインシード、カラギーナン、ガラクトン、アラビアガム、ペクチン、マンナン、デンプン、キサンタンガム、カードラン、メチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、コンドロイチン硫酸、デルマトン硫酸、グリコーゲン、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、ヒアルロン酸ナトリウム、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、ムコイチン硫酸、ヒドロキシエチルグアガム、カルボキシメチルグアガム、デキストラン、ケラト硫酸、ローカストビーンガム、サクシノグルカン、カロニン酸、キチン、キトサン、カルボキシメチルキチン、寒天、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチレングリコール、ベントナイト等の増粘剤、表面を処理されていても良い、マイカ、タルク、カオリン、合成雲母、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、無水ケイ酸（シリカ）、酸化アルミニウム、硫酸バリウム等の粉体類、表面を処理されていても良い、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、酸化コバルト、群青、紺青、酸化チタン、酸化亜鉛の無機顔料類、表面を処理されていても良い、雲母チタン、魚鱗箔、オキシ塩化ビスマス等のパール剤類、レーキ化されていても良い赤色 202 号、赤色 228 号、赤色 226 号、黄色 4 号、青色 404 号、黄色 5 号、赤色 505 号、赤色 230 号、赤色 223 号、橙色 201 号、赤色 213 号、黄色 204 号、黄色 203 号、青色 1 号、緑色 201 号、紫色 201 号、赤色 204 号等の有機色素類、ポリエチレン末、ポリメタクリル酸メチル、ナイロン粉末、オルガノポリシロキサンエラストマー等の有機粉体類、パラアミノ安息香酸系紫外線吸収剤、アントラニル酸系紫外線吸収剤、サリチル酸系紫外線吸収剤、桂皮酸系紫外線吸収剤、ベンゾフェノン系紫外線吸収剤、糖系紫外線吸収剤、2 - (2' - ヒドロキシ - 5' - t - オクチルフェニル)ベンゾトリアゾール、4 - メトキシ - 4' - t - ブチルジベンゾイルメタン等の紫外線吸収剤類、エタノール、イソプロパノール等の低級アルコール類、ビタミン A 又はその誘導体、ビタミン B₆ 塩酸塩、ビタミン B₆ トリパルミテート、ビタミン B₆ ジオクタノエート、ビタミン B₂ 又はその誘導体、ビタミン B₁₂、ビタミン B₁₅ 又はその誘導体等のビタミン B 類、α - トコフェロール、β - トコフェロール、δ - トコフェロール、ビタミン E アセテート等のビタミン E 類、ビタミン D 類、ビタミン H、パントテン酸、パンテチン等のビタミン類などが好ましく例示できる。これらの必須成分と任意成分とを常法に従って処理し、ローション形態、乳液形態、エッセンス形態、クリーム形態、ジェル形態に加工することにより、本発明の化粧品組成物とすることが出来る。本発明の化粧品組成物としては粘度が 1000 mP・s 以下のローション形態乃至は乳液形態が特に好ましい。これは本発明の化粧品の特徴である、化粧料の担持量の増加効果が著しいためである。又、本発明の化粧品に於いては、例えば、保湿成分のような有効成分の皮膚への移行特性に優れることから、このような成分を含有することが好ましい。有効成分としては、アルブチン、アスコルビン酸リン酸エステル及び / 又はその塩、トラネキサム酸及び / 又はその塩、トラネキサム酸メチルアミドなどの美白剤、グリセリン、ヒアルロン酸及び / 又はその塩、トレハロース、硫酸化トレハロース及び / 又はその塩等の保湿成分、グリチルリチン酸及び / 又はその塩、グリチルレチン酸アルキルエステル等の抗炎症剤などが好適に例示でき、かかる成分の好ましい含有量は、0.01 ~ 15 質量%である。